『朝倉 数学辞典』**変更箇所一覧**

頁	行	変更前	変更後
66 左	↓13	に正定値内積 $\langle , \rangle_p$ が定義され，それが	の正定値内積 $\langle , \rangle_p$ で，
	↓14	可積分に依存するもののことを	可微分に依存するものを
	↑7	は定数である	は t について一定である
	↑3	孤長	弧長
	↑2	$\frac{dc}{dt}$ と V	$\dot{c}(t)$ と $V(t)$
66 右	↓5, 11	孤長	弧長
	↓10	を考える．D の	を考える．ただし，境界 ∂D は外向き法ベクトルにより向き付けられているものとする．D の
67 左	↓11	円錐同じ	円錐と同じ
	図 3	θ	$K(p)$
	↑10	$r\theta$	$r(2\pi - K(p))$
	↑9	$\theta = K(p)$	$2\pi - K(p)$
	↑7	き，ガウス曲率の積分は θ である	き (図 3(c))，ガウス曲率の積分は $K(p)$ である
	↑4	$\sum K(p) = 2\pi\chi(M)$	$2\pi\chi(M) = \sum K(p).$
67 右	↑1	小沢哲也：曲線・曲面と接続の幾何，培風館，1998.	小林昭七：曲線と曲面の微分幾何 (改訂版)，裳華房，1995.
143 左	↓11–12	**特異点**といい，そうでないとき	**特異点**，そうでない点を
	↓15	接ベクトル	$a < t_0 < s < b$ に対して，接ベクトル
	↓17	$\int_a^b$	$\int_{t_0}^s$
	↓18	$c(a)$ から $c(b)$	$c(t_0)$ から $c(s)$
	↓18	孤長	弧長
	↑13	$c(a)$	$c(t_0)$
	↑5	局所的には曲線が一つの	局所的には一つの
143 右	↓7	をもつ曲線を表す．しかし，後	をもつ．後
	↓10	がある．	があり，注意を要する．
	↑12	「曲線の…」の前に右の段落を挿入	曲率 $\kappa(p)$ が 0 でない曲線上の点 $c(t)$ における法線上の点 $c(t) + \frac{1}{\kappa(t)}e_2(t)$ を $c(t)$ における**曲率中心**といい，これを中心とし $c(t)$ を通る円を**曲率円**という．
	↑1	単位接	接
144 左	↓1	ルと単位法ベクトルに平行な直線を	ルに平行な直線と垂直な直線を
	↓3	C_1, C_2 を考える．C_1 の各法線が C_2 の	$\mathcal{C}_1, \mathcal{C}_2$ を考える．$\mathcal{C}_1$ の各法線が $\mathcal{C}_2$ の
	↓8	と呼ぶ．曲率が	と呼ぶ．$\mathcal{C}_2$ の曲率中心の軌跡が $\mathcal{C}_1$ である．曲率が
	↓21	主単位	単位主
	↓22	従単位	単位従
	↓26	存在する:	存在する $(\kappa > 0)$:
	↑7	$= \tau_2(t))$	$= \tau_2(t), \forall t)$
	↑4	$\kappa > 0$	κ
144 右	↓3	孤長	弧長
	↓9	(rotation number)	(rotation number, winding number)
	↑1	[2]　小沢哲也：曲線，培風館，2005.	(削除)
145 左	表題	coordinate	coordinates
	↓9,26,29	coordinate	coordinates
145 右	↓3	$\boldsymbol{R}^2$ 上の点 O と	$\boldsymbol{R}^2$ 上の任意の点 O と
	↓5	$P = 0+$	$P = \mathrm{O}+$
	↓7,9,17,22	coordinate	coordinates
146 左	↓3–4, ↑5	coordinate	coordinates
	↓15	等温座標である．	等温座標であり，正則関数 $x + \sqrt{-1}y = d\cosh(\theta + \sqrt{-1}\mu)$ に対応している．
	↓18	$(2uv, u^2 - v^2)$	$(u^2 - v^2, 2uv)$
	↑11	$= -\sqrt{-1}(u$	$= (u$

頁	行	変更前	変更後
146 左	↑1	等温座標である.	等温座標であり，正則関数 $x+\sqrt{-1}y = d\tanh\frac{u+\sqrt{-1}v}{2}$ に対応している．ただし，$\tanh z = \sinh z/\cosh z$ である.
146 右	↑9–4	平面の楕円座標は次の写像 $\Phi : (-c^2,\infty)_u \times (-b^2,-c^2)_v \times (-a^2,-b^2)_w \to \boldsymbol{R}^3$ を使って 3 次元の楕円座標に拡張される: $$\Bigl(\pm\frac{F(u,v,w;a^2)}{f(b^2,c^2;a^2)},\pm\frac{F(u,v,w;b^2)}{f(a^2,c^2;b^2)},\pm\frac{F(u,v,w;c^2)}{f(a^2,b^2;c^2)}\Bigr)$$ ただし，$F(u,v,w;\mu)=\sqrt{(\mu+u)(\mu+v)(\mu+w)}$，$f(u,v;\mu)=\sqrt{(\mu-u)(\mu-v)}$ とおいた.	平面の楕円座標は，定数 $0 < A_1 < A_2 < A_3$ に対して定まる次の写像 $\varphi : (-A_3,-A_2)_u \times (-A_2,-A_1)_v \times (-A_1,\infty)_w \to \boldsymbol{R}^3$ を使って空間の楕円座標に拡張される: $$\varphi(u,v,w) = (\pm f_1, \pm f_2, \pm f_3),$$ ただし，$f_i = \sqrt{\frac{(A_i+u)(A_i+v)(A_i+w)}{(A_i-A_j)(A_i-A_k)}}$ $(i = 1,2,3,\ \{i,j,k\} = \{1,2,3\})$ である.
147 左	↓7	$\boldsymbol{R}^3$	E^3
	↓18	行列で，$\boldsymbol{R}^2$ の正定値内積	行列で正定値内積
147 右	↓8	は曲面の	は，符号を除いて，曲面の
148 右	↓7	du	dv
	↑1	小沢哲也：曲線・曲面と接続の幾何，培風館，1998.	小林昭七：曲線と曲面の微分幾何 (改訂版)，裳華房，1995.